

KANDAI PSYCHOLOGICAL REVIEW

Vol. 4 March 2010

Contents

Original articles

*Masashi Kushizaki*

An introduction to mutual collage watchword technique (2) : Measurement by the Semantic Differential method. .... ( 1 )

*Toshiya Tanaka, Tomoko Kitano*

Simon's "Bounded rationality" : It's Significance and Implications. .... ( 7 )

*Kie Yano*

An aspect of therapist presence as explicated from a focusing session. .... ( 19 )

*Yuri Tanaka*

Consideration of the effective supports based on the study of autistic behavior from the viewpoint of Wallon's theory. .... ( 31 )

*Yoshinori Yamada*

Intergenerational successive process of teaching-learning structure from a socio-cultural-historical perspective : Through the theory of reproduction and the theory of situated learning. .... ( 41 )

*Miwa Kojima*

Review on the supports based on Psychological assessments for children with difficulties in reading and writing. .... ( 55 )

Reports

Summaries of Master Theses, 2008, 2009 .... ( 65 )

Titles of Graduation Theses, 2009 .... ( 81 )

Information

THE SOCIETY FOR PSYCHOLOGICAL STUDIES  
DEPARTMENT OF HUMANITIES  
KANSAI UNIVERSITY

Osaka Japan

文学部心理学論集

第4号 2010年3月

原著論文

相互コラージュ・ウォッチワード・テクニックの試み(2) : SD法を用いた測定 ..... ( 1 )  
串崎 真志

サイモンの「限定合理性」の持つ意味と意義 ..... ( 7 )  
田中 俊也・  
北野 朋子

フォーカシングにおけるプレゼンスの一側面  
—あるセッション記録より— ..... ( 19 )  
矢野 キエ

Wallon理論に基づく自閉症様行動の考察と有効な支援方法の検討 ..... ( 31 )  
田中 友梨

社会・文化・歴史的視点からみた教授・学習形態の世代間継承過程  
—再生産論・状況的学習論を媒介として— ..... ( 41 )  
山田 嘉徳

読み書き困難児に対する心理アセスメントにもとづく支援に関する文献的検討 ..... ( 55 )  
小島 美和

資料

平成20年度・21年度修士論文要旨 ..... ( 65 )

平成21年度心理学専修第40回卒業論文題目 ..... ( 81 )

彙報

関西大学 文学部 心理学会

文学部心理学論集

第四号

二〇一〇年

関西大学文学部心理学会

## 文学部心理学会第4回研究大会・総会 報告

平成22年1月23日（土）、関西大学尚文館502教室において文学部心理学会第4回研究大会が開催されました。本年の研究大会では、文学研究科の心理・博士課程後期課程を修了し学位を取得されて、現在、奈良教育大学でご活躍中の、認知心理学をご専門とされる山本晃輔先生によるプルースト現象という想起に関する小講演と、2008年より関西大学へ赴任され、文学部心理学専修において教育・研究に従事されている菅村玄二先生による心身問題に関する講演がありました。文学部心理学専修学生、心理学研究科大学院生、卒業生、学部学生、他大学等より、52名という多くの参加をいただき盛会のうち終了することができました。

また、総会では、平成21年度会計報告が承認されるとともに、本誌の電子化にともなう編集・投稿規定の改正（第7項の追加）が承認されました。この規程の改正より、本誌に掲載された論文は国立情報学研究所論文情報ナビゲータ（CiNii）等を通して、多くの方に提供されていくこととなります。会員の皆さまの投稿をお待ちしております。

### プログラム

開会の挨拶 学会長 田中俊也

小講演 奈良教育大学 特任講師 山本 晃輔氏

演題「プルースト現象の認知心理学的研究」

講演 関西大学 助教 菅村 玄二氏

演題「うつむくからうつになるのか？」

総会

懇親会



山本晃輔先生 小講演



菅村玄二先生 講演

関西大学文学部心理学会 2008年度 会計報告

2008年4月1日～2009年3月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度よりの繰越金	97,562	学会・懇親会費	60,000
学会費会費 ※1	570,000	通信費	19,825
懇親会会費	0	文学部心理学論集印刷費	399,400
文学部心理学論集抜き刷り代 (執筆者負担分)	0	事務消耗品費	2,874
		人件費	4,050
預金利息	715	次年度繰越金 ※2	182,128
	668,277		668,277

(単位：円)

<内訳>

※1

<新2年次生>  
 38名×12,000円 = 456,000円  
 <新2年次生(中途入会)>  
 3名×9,000円 = 27,000円  
 <新3年次生(中途入会)>  
 2名×6,000円 = 12,000円  
 <新4年次生(中途入会)>  
 1名×3,000円 = 3,000円  
 <学外会員>  
 11名×3,000円 = 33,000円  
 1名×3,000円×3 = 9,000円 (2010年度～2012年度分)  
 1名×3,000円 = 3,000円 (2009年度分)  
 <専任スタッフ>  
 9名×3,000円 = 27,000円  
 570,000円

※2

りそな銀行 現金  
 (166,950円 + 15,178円)  
 = 182,128円

会計監査 金敷大之 (畿央大学健康科学部講師・関西大学非常勤講師)

## スタッフの活動

(2009年4月～2010年3月)

加戸陽子

### 【教育研究活動】

#### <論文>

1. T. Ogino, K. Watanabe, Y. Kado, et al  
Predicting executive function task scores  
with the Rey-Osterrieth Complex Figure.  
Brain & Development (2009) 31, 52-57.
2. 加戸陽子, 岡 牧郎, 眞田 敏 発達障害  
を伴う子どもへの支援に向けた神経心理学的  
検査の活用 月刊実践障害児教育 (2009) 8  
月号, 23-30.
3. 平澤利美, 眞田 敏, 加戸陽子, ら 改訂  
版ストループテストの標準値および干渉効果  
に関する指標の発達の变化 脳と発達 (2009)  
41, 426-430.

#### <学会・講演等>

1. 第51回日本小児神経学会総会 5月 鳥取  
加戸陽子, 眞田 敏, 柳原正文, ら WISC-  
IIIによる広汎性発達障害および注意欠陥/多  
動性障害の知能構造の検討
2. IASSID 2<sup>nd</sup> ASIA PACIFIC REGIONAL  
CONGRESS June Singapore Y. KADO, S.  
SANADA, M. YANAGIHARA, et al  
Executive function assessed by the Keio  
version Wisconsin card sorting test in  
children with attention-deficit / hyperactivity  
disorder and pervasive developmental  
disorder.
3. IASSID 2<sup>nd</sup> ASIA PACIFIC REGIONAL  
CONGRESS June Singapore T. HIRASAWA,  
T. MORIKAMI, Y. KADO, et al Clinical  
application of the Modified Stroop Test to  
Children with Attention-Deficit /  
Hyperactivity Disorder and Pervasive  
Developmental Disorder.

4. 日本発達障害学会第44回研究大会 8月  
岩手

加戸陽子, 諸岡輝子, 眞田 敏 Keio 版  
Wisconsin card sorting testによる注意欠陥/  
多動性障害のサブタイプ別比較

5. 日本発達障害学会第44回研究大会 8月  
岩手

平澤利美, 加戸陽子, 眞田 敏, ら 改訂版ス  
トループテストによる注意欠陥/多動性障害  
の検討

6. 日本特殊教育学会第47回大会 9月 栃木  
秀 節子, 加戸陽子 通常学習の中での書字困  
難児のスクリーニング

7. 第3回 関西大学文学部心理学会 講演  
1月 大阪 発達障害特性の理解と支援

### 【学内外の活動等】

#### <学内>

人権問題研究室研究員  
教員免許更新講習 8月  
大阪府教委10年研修 8月

#### <学外>

- ・岡山大学病院小児神経科 心理検査士
- ・大野小児科医院 心理検査士

#### <所属学会>

日本小児科学会  
日本特殊教育学会  
日本発達障害学会  
日本小児神経学会

串崎真志

### 【教育研究活動】

#### <著書>

1. 『健康とくらしに役立つ心理学』(金政祐  
司・大竹恵子編、分担執筆)、2009年4月、  
北樹出版、全195頁

2. 『絶対役立つ教養の心理学』（藤田哲也編、分担執筆）、2009年4月、ミネルヴァ書房、全218頁
3. 『変化の第一歩：日常生活やセラピーを変える実践ガイド』（ビル・オハンロン著、串崎真志監訳 永井知子・酒井隆訳）、2009年5月、金剛出版、全208頁

<論文>

1. 「意地と甘えの関連」（永井知子と共著）『関西大学心理相談室紀要』、第10号、97-105.
2. 文化創造としての心理支援『平成20年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』（関西大学大学院社会学研究科）
3. 相互コラージュ・ウォッチワード・テクニクの試み『関西大学文学部心理学論集』（関西大学文学部心理学専修）、第3号、1-4.
4. 自閉症支援における情動共有の意義（田中友梨との共著）『関西大学人権問題研究室紀要』、第58号、pp.1-10

<学会発表>

1. 「コラージュを用いた相互ウォッチワード・テクニク(2) SD法による測定」日本人間性心理学会第28回大会（関西大学）個人ポスター発表
2. 「成人アタッチメント研究の現状の課題と今後の可能性」日本心理学会第73回大会（立命館大学）ワークショップ、話題提供者

<その他>

1. 「書評 バラ・ジェイソン著 日笠摩子監訳 解決指向フォーカシング療法」日本フォーカシング協会ニューズレター」、第12巻第2号、17-18.

<ゼミ活動>

3年次の「心理学演習」（13名）、4年次の「卒業演習」（12名）を担当。

**【学内外の活動】**

<学内>

心理学専修代表、人権問題研究室研究員

<学外>

1. 福井県総合福祉相談所・講師（スーパーバイザー）
2. 京都家庭裁判所家事調停委員カウンセリング講座・講師
3. 大阪府こころの健康総合センターリハビリテーション課・講師
4. 摂津市次世代育成支援行動計画推進協議会・座長

**菅村玄二**

**【教育研究活動】**

<著書>

1. 「十五周年記念版の序文」『マインドフルネスストレス低減法』（ジョン・カバットジン著、春木 豊訳）、2009年2月、北大路書房、全390頁.
2. 『カウンセリングのエチュード：反射・共感・構成主義』（岡村達也と小林孝雄との共著）、2010年1月、遠見書房、全254頁.

<論文>

1. 「構成主義によるクライアント中心療法の再構築」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』、第54輯、134-140頁、2009年3月
2. 「海外文献紹介：“Behaviorism, Cognitivism, and Constructivism: Reflections on persons and patterns in my intellectual development”（行動主義、認知主義、そして構成主義——私の考え方はいかに変わったか？ また誰に影響を受けたか？）」『臨床心理学』、第9巻第6号、841-843頁.

<学会発表>

1. 「マインドフル・イーティングによる反応時間の変化」日本心理学会第73回大会（立命館大学）ワークショップ（臨床行動分析5）での話題提供、2009年8月.
2. 「マンガへの心理学的アプローチ」日本心理学会第73回大会（立命館大学）ワークシ

ップ (マンガ心理学の展開1: 認知心理学・教育心理学・感性心理学からのアプローチ) での指定討論, 2009年8月.

3. 「アジアにおける瞑想技法の分類の試み」日本カウンセリング学会第42回大会 (活水女子大学) ポスター発表, 2009年8月
4. The “gaze-down” stance elicits negative mood states. Poster session presented at the 21st Annual Convention of Association for Psychological Science, San Francisco, CA, USA, May, 2009. (Coauthored with Satoko Shiraishi and Ryutaro Higuchi) Abstract Registration Only.
5. Mindful eating enhances attention. Poster presented at the 23rd Annual Conference of the European Health Psychology Society, Pisa, Italy, September, 2009. (Coauthored with Satoko Shiraishi and Yusuke Murakami)
6. The impact of positive events and cognition on future depressive states. Poster presented at the 23rd Annual Conference of the European Health Psychology Society, Pisa, Italy, September, 2009. (Coauthored with Satoko Shiraishi and Fusako Koshikawa)

<その他>

1. 立命館大学人間科学研究所および立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 「法と心理学」研究拠点の創成主催「フェミニズム心理学のためのナラティブ方法論」(Mary M. Gergen) の通訳兼ファシリテーター, 2009年10月 (立命館大学)
2. 立命館大学人間科学研究所および立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 「法と心理学」研究拠点の創成主催「文化・歴史的視点からみた心理療法」(Kenneth J. Gergen) の通訳兼ファシリテーター,

2009年10月 (立命館大学)

<競争的研究資金の獲得状況>

1. 平成21年度科学研究費補助金 (若手研究・スタートアップ) 1,404,000円 (内, 間接経費: 324,000円) 研究課題名: 自律神経系及び中枢神経系活動にみる姿勢の対自機能 (課題番号: 20830123)

#### 【学内外の活動】

<学内>

1. 文学部自己点検・評価委員会
2. 心理学専修代表補佐
3. プレ・ステューデント・プログラム
4. 大手前高校模擬授業

<学外>

1. International Transpersonal Association (Founding Board Member)

#### 田中俊也

##### 【教育研究活動】

<論文>

北野朋子・田中俊也 2009年3月 第二言語で会話する際の心理分析—共生的配慮からみた「エラー」とは— 心理学叢誌, 第2号, 79-86.

<学会発表>

齊尾恭子・岩崎千晶・田中俊也 2009年3月 教員の持つ教科認識、教え・学びの哲学とICT活用形態の関係(2) 第15回大学教育研究フォーラム発表論文集, 108-109.

冬木正彦・久保田賢一・田中俊也・杉本仁嗣・山口紀奈・岩崎千晶 2009年8月 関西大学におけるOCWの現状と課題 日本工学教育協会平成21年度工学・工業教育研究講演会講演論文集, 420-421,

齊尾恭子・田中俊也 2009年9月 教師の教授行動を成立させる諸要因—学生の回想的評定からみた分析— 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 372.



張 陽陽・田中俊也 2009年9月 児童・生徒の自己学習力の育成—中国の教育問題における教師の役割— 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 564.

山田嘉徳・押江隆・田中俊也 2009年11月 大学におけるピア・サポート活動の効果査定調査—共感性、援助規範意識、向社会的行動に着目して— 関西心理学会第121回大会発表論文集, 43.

<報告書>

田中俊也 2009年3月 CEASのフォーラム利用状況からみた学生の学びのスタイル [http://www.atl.kansai-u.ac.jp/renkan/images/library/File/tanaka\\_2009\(1\).pdf](http://www.atl.kansai-u.ac.jp/renkan/images/library/File/tanaka_2009(1).pdf)

<講演・シンポジウム等>

・関西大学高大連携1セミナー

9月30日 滋賀県立東大津高等学校

12月14日 奈良市立一条高等学校

12月19日 滋賀短大附属高等学校

・模擬講義

11月17日 兵庫県立武庫荘総合高校（関西大学にて）

・シンポジウム

7月25日 平成20年度文部科学省・大学院GP「参加連携型の大学院教育による社会創造～共同プロジェクトによる「考動力」の育成～（代表：総合情報学部 久保田賢一）シンポジウム「大学における学習環境のデザイン」シンポジスト

9月26日 第1回学生支援GP連続シンポジウム「ピア・サポートの取り組みと新たな課題」シンポジスト

#### 【学内外の活動】

<学内>

大学院心理学研究科長。文学部総合計画会議委員。

<学外>

伊丹市学校教育審議会会長。日本赤ちゃん学会

評議員。認定心理士会評議員。学校心理士。認定心理士。

#### 野村幸正

学生の声に耳を傾けながら、また自分の生の声で学生に話しかけながら、「心理学」を媒体にして、教え—学ぶ関係の奥にあるものを模索している。

#### 比留間太白

##### 【教育研究活動】

<論文>

2009.3 比留間太白「協働を通じた学習の発達—教育的介入研究における共媒介の検討」『CHAT Technical reports』関西大学人間活動理論研究センター, 8-33-44.

##### 【学内外の活動】

<学内>

関西大学人間活動理論研究センター研究員

<社会的活動>

「テクニカル・ライターの会」企画・運営委員  
「教育心理学研究」常任編集委員（2010.1～）

#### 松村暢隆

##### 【教育研究活動】

<著書>

『才能と教育：個性と才能の新たな地平へ』（岩永雅也・松村暢隆共著）放送大学教育振興会, 2010年

<著書分担執筆>

“Recent Developments in Gifted Education in East Asia: Japan”. In L.V.Shavinana (ed.), *International Handbook on Giftedness* (pp.1449-1454). Springer, 2009.

<論文>

「才能を伸ばすアメリカの科学特別学校」関西大学文学論集, 2010年, 59-4.

<学会シンポジウム等講演>

「今、早期教育を考える：才能教育から見た早期教育」日本子ども学会第6回学術集会（お茶の水大学），2009年9月

「個に応じた指導と評価：才能と発達障害に応じた指導と評価」アメリカ教育学会第21回大会（奈良教育大学），2009年9月

「シャトル学習と学習の個性化」研究集会，香川大学附属坂出中学校，2009年10月

#### <科研費研究>

「理科授業で学習困難と才能を示す中学生への特別支援の方策に関する研究」（研究代表者）

#### 【学内外の活動】

放送大学客員教授（2010年度開講『才能と教育』（院・TV）主任講師）

アメリカ教育学会理事

池見 陽（関西大学臨床心理専門職大学院）

#### 【教育研究活動】

##### <著書>

「フォーカシング指向心理療法」『精神療法・心理社会療法ガイドライン』精神科治療学 24巻 増刊号，pp.66-67 星和書店（10月26日発行）

「基礎から学ぶ 心理学・臨床心理学」（山祐嗣、山口素子、小林千博 編著 北大路書房）に「自律訓練法と自己調整法」の節、及び「産業領域の実践」の節を執筆。（4月1日発行）

「フォーカシング指向心理療法」『専門医のための精神科臨床リュミエール第11巻：精神療法の実践』青木省三、中川影子（編）、中山書店 pp.120-131.（8月10日発行）

##### <辞典>

「フォーカシング」の項を医学書院「医学大辞典」に執筆（2009年2月15日発行 医学書院）

##### <学術論文>

「Eugene Gendlin の心理療法論：体験・表現・

理解が実践させる体験過程」デイルタイ研究 20:45-62（2009年11月30日）

池見 陽 自律訓練法のNext Stage を探る：フォーカシングの観点から見た自律訓練法とイメージ 自律訓練研究第29巻第1号10-14.（2009年6月）

[Ikemi, A.: Searching for the Next Stage of Autogenic Training: Autogenic Training and Imagery seen from a Focusing-Oriented Perspective. Jap. J. Autogenic Therapy 29(1) 10-14. (June 2009, in Japanese)]

##### <報告書>

「地域実践心理療法としての体験過程流コラージュワーク」平成20年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書 pp.155-166.

##### <訳書>

「フォーカシング指向アートセラピー」ローリー・ラパポート著 池見 陽・三宅麻希監訳 誠信書房 5月10日

##### <学会発表>

Ikemi, A.: A Meditative Second Gateway to Focusing-Oriented Therapy: Clearing a Space in Combination with Autogenic Training. The 21st International Focusing Conference (Awajishima, Japan May 15th, 2009)

Miyake, M. & Ikemi, A.; Rating Interviews using a paper and pencil version of the Experiencing Scale. The 21st International Focusing Conference (Awajishima, Japan May 13th, 2009)

Hirano, T. & Ikemi, A.; Aiding Human Service Providers with Therapist Focusing. The 21st International Focusing Conference (Awajishima, Japan May 16th, 2009)

星 光子、大貴絵莉、平野智子、青木 剛、玉木登志枝、池見 陽；「企業のメンタルヘルス研修の効果を促進する要因について：アン



ケート結果の比較から」日本人間性心理学会  
第28回大会（法政大学多摩キャンパス  
2009年8月29日）

**【学内外の活動】**

関西大学ハラスメント委員（臨床心理専門職大  
学院）

日本人間性心理学会 常任運営委員

日本自律訓練法 理事

（財）日本心身医学協会 理事

日本心身医学会 代議員

日本心理臨床学会 広報委員

第21回フォーカシング国際会議実行委員長

The Focusing Institute, Certifying Coordinator  
Person-Centered and Experiential  
Psychotherapies (World Association for  
Person-Centered and Experiential  
Psychotherapy and Counseling) 編集委員

以上

中田行重（関西大学臨床心理専門職大学院）

**【教育研究活動】**

<論文>

1. We-Feeling for the Japanese, Journal of  
Critical Psychology, Counselling and  
Psychotherapy, 9(3), 153-157.
2. Tasks of Japanese Person-Centered and  
Experiential Practitioners 関西大学心理相  
談室紀要, 11, 21-32.

<学会発表>

1. 中田行重・村山正治・平井達也・野島一彦  
わが国のPCEの現状と発展的展望、日本人  
間性心理学会第28回大会（法政大学）

**【学内外の活動】**

1. 心理臨床カウニングルーム室長
2. 日本人間性心理学会常任理事
3. Person-Centered and Experiential  
Psychotherapies (The Journal of the World  
Association for Person-Centered and

Experiential Psychotherapy and  
Counseling), Board & Associate Editor

## 執筆者紹介（執筆順）

串崎 真志	関西大学文学部心理学専修准教授
田中 俊也	関西大学文学部心理学専修教授
北野 朋子	関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程
矢野 キエ	関西大学大学院文学研究科博士課程後期課程
田中 友梨	関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程
山田 嘉徳	関西大学大学院心理学研究科博士課程前期課程
小島 美和	関西大学大学院心理学研究科博士課程前期課程

編集委員会

委員長 比留間太白 (関西大学文学部)  
委員 加戸陽子 (関西大学文学部)  
串崎真志 (関西大学文学部)  
菅村玄二 (関西大学文学部)  
田中俊也 (関西大学文学部)  
野村幸正 (関西大学文学部)  
松村暢隆 (関西大学文学部)  
池見 陽 (関西大学臨床心理専門職大学院)  
中田行重 (関西大学臨床心理専門職大学院)

---

(非売品)

文学部心理学論集 第4号

2010年3月16日 印刷  
2010年3月31日 発行

編集兼発行者 関西大学文学部心理学会  
会 長 田 中 俊 也  
印 刷 株式会社 廣 濟 堂

---

## 文学部心理学論集 編集・投稿規程

1. 本誌は関西大学文学部心理学会の機関誌であって、年1回発行される。
2. 本誌は編集委員会の責任のもとに編集される。
3. 編集委員会は、関西大学文学部総合人文学科心理学専修の専任教員から構成される。
4. 本誌には、原著、書評、彙報の欄を設ける。編集委員会の判断でその他の欄を設けることもできる。
5. 本誌に投稿を希望する者は、以下の各項（投稿規程）を遵守すること。
  - ① 投稿は、学会員に限る。なお、特集論文については編集委員会の判断による。
  - ② 掲載の順序、分類は編集委員会が決定する。
  - ③ 論文は未発表のものに限る（学会での口頭発表、ポスター発表、研究会等での発表を除く）。
  - ④ 論文の長さは原則として本誌仕上がり10ページ以内（15,960字。タイトル、文献、図表等すべて含む）とする。編集委員会が特に認めたものについてはこの限りではない。
  - ⑤ 原著論文の構成および表記は、日本心理学会等の学会誌で規定された「投稿の手引き」に準拠したものに限る。
  - ⑥ 当該年度に掲載を希望する投稿原稿は電子的に記録したものに、出力された原稿2部を添えて、当該年度の11月10日までに編集委員会に提出する。
  - ⑦ 投稿論文は編集委員会によって審査され、掲載の可否が決定され、本人に通知される。編集委員会から修正等を要求することもあり得る。
  - ⑧ 論文印刷に関して特に費用を要する分は執筆者の負担とする。
  - ⑨ 執筆者には論文抜き刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
6. 本誌に掲載された論文の原稿は原則として返却しない。
7. 本誌に掲載された論文の著作権は関西大学文学部心理学会に帰属する。
8. 本誌に掲載された論文を無断で複製及び転載することを禁ずる。
9. 編集委員会の事務局を心理学専修合同研究室におく。

以上

2006年9月1日制定

2008年2月22日改訂

2010年1月23日改訂

# 関西大学大学院心理学研究科 研究・教育倫理綱領

2008年10月15日施行

関西大学大学院心理学研究科構成員（専任教育職員、大学院博士課程（前期・後期）及び専門職課程大学院生、大学院研究生）は、すべての人間の基本的な人権を認め、これを侵さず、人間の自由と幸福の追求の営みを尊重し、また、人間以外の動物についてもその福祉と保護に留意し、心理学における学術的活動とそれに関連する諸活動にたずさわる。このため、関西大学大学院心理学研究科構成員は、心理学の専門家としての自覚を持ち、自らの行為に対する責任を持たなければならない。そして他者がこのような規準を侵したり、また自らの行為が他者によって悪用されることを黙認してはならない。

以上の主旨にもとづき以下の条項を定める。

## 1. 責任の自覚

関西大学大学院心理学研究科構成員は自らの研究・実践活動が個人や社会に対して影響のあることを自覚し、自らの活動は個人の幸福と福祉及び社会への貢献をめざしたものでなければならない。そのためには常に自己研鑽につとめ、資質と技能の向上を図らねばならない。

## 2. 人権の尊重

関西大学大学院心理学研究科構成員は研究・実践活動の対象となる他者や動物に対して、常にその尊厳を尊重しなければならない。

- 1) 個人のプライバシーや社会的規範を侵す行為をしてはならない。
- 2) 精神的・身体的危害を加えることをしてはならない。
- 3) 動物研究に関しては、動物が人間の共存者との認識をもち、適切な生育環境を確保しなければならない。

## 3. 説明と同意

実験、調査、検査、臨床活動などを行うとき、その協力者に十分な説明をし文書又は口頭で同意を得なければならない。

- 1) あらかじめ説明を行うことができない場合には、事後に必ず十分な説明をしなければならない。
- 2) 協力者が判断できない場合には、協力者に代わり得る責任のある者の判断と同意を得なければならない。
- 3) 協力者の意志で参加を途中で中断あるいは放棄できることを事前に説明しなければならない。
- 4) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であったような手順でしかその研究が成立せず、かつ、科学的・教育的その他の意義でどうしても必要であると考えざるを得ない場合をのぞいて、そうした研究は行うべきではない。
- 5) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であった場合は、

できるだけ早く研究協力者に説明をしなければならない。その研究の実験が行われた終了時が望ましいが、遅くともその研究の終結までには行わねばならない。

- 6) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であった場合の研究で協力者に精神的ダメージを与えた場合、その回復に全力を注がねばならない。

#### 4. 情報の管理

関西大学大学院心理学研究科構成員は得られた情報については厳重に管理し、みだりに他に漏らしてはならない。また情報は、本来の目的以外に使用してはならない。

#### 5. 公表に伴う責任

公表に際しては、専門家としての責任を自覚して行わねばならない。

- 1) 個人のプライバシーを侵害してはならない。特に個人情報の取り扱いには最大限の配慮をせねばならない。
- 2) 研究のために用いた資料等については出典を明記せねばならない。
- 3) 共同研究の場合、公表する際には共同研究者の権利と責任を配慮せねばならない。
- 4) 公的発言・広告・宣伝などで、社会に向けて公表する場合には、心理学的根拠にもとづいて行い、虚偽や誇張のないようにせねばならない。

#### 6. 附則

関西大学大学院心理学研究科心理臨床学専攻（専門職学位課程）については、別途倫理綱領を定めるものとする。

#### <解説>

関西大学における心理学研究は、大学院レベルでは2008年4月から心理学研究科がたちあがり、これまでの文学研究科の心理学と社会学研究科の心理学が同じ研究科の中で研究活動を行うようになりました。

それに伴って、心理学研究・教育上の倫理規定を策定し、上記の倫理綱領として施行されています。

今後、心理学研究科の構成員（教員、院生、研究生）等が本「文学部心理学論集」に投稿するに際し、本学会としてもこの綱領を踏襲するものとして、前ページの「編集・投稿規程」に加えて紹介します。十分に参照され、ますますの研究活動を期待いたします。また、学部での研究活動においても本綱領が生かされることを望みます。

(2009年1月 文学部心理学会 会長 田中俊也)